

京都市山科区 和地 純子（83歳）

私には大切な写真が2枚あります。

1枚は6人兄妹の末っ子で、現在83歳の私が7歳の時、30人ほどの親族に送られて入隊する長兄。

学校全体で2位になったと悔しいと泣いて帰って来たかきこい子。大学生の途中で死の不安も考えず送り出した、間違った教育に染まっていたと泣いた母。

この写真の日付は昭和18年12月10日。

1枚はその大事な大事な子の戦死、その写真を前に出征していく父。6人兄妹が5人になり、祖父と心配顔の母と、親族も無く8人の写真。この時昭和20年3月28日。

自分の子が、大切な大切な子が戦死するとはゆめゆめ思わなかったろう母の心。今私は母の亡くなった83歳を迎え、苦しいほど無念だったろうと母の心を思います。

その死を知った後、また、未だ5人の子どもの父である夫を送る母の不安。この2枚の写真を見ると文句なく泣けてきます。

世の中に絶対と言い切ることはないと教わってきましたが、戦争だけは絶対にしてはならない、戦争に続く教育はしてはならないとずっと思い続けています。